

みえ 三重県議会 新聞

令和7年度(2025年度)NO.2

もくじ

- ① ページ みえ現場de県議会を開催
- ② ページ 2025年「あなたが選ぶ!三重県議会の活動ベスト10」
- ③ ページ 議会とはどんな活動をしているの?・みえ県議会出前講座を14校で実施!
- ④ ページ 議会用語について知ろう・クロスワードパズル

お知らせ

「みえ高校生県議会」を開催します

三重県議会では、高校生に議会活動の体験を通じて議会への関心を高めるとともに、高校生の意見を議会での議論に反映していくことを目的として「みえ高校生県議会」を開催します。

開催日 令和8年8月20日(木)
場所 三重県議会議事堂 議場



詳しくはコチラ!

みえ現場de県議会を開催

三重県議会では、多様な意見を聞き、県議会での議論に反映するため、テーマを設定し、県民の皆さんから直接意見を聞く「みえ現場de県議会」を平成22年度から開催しています。令和7年度は2つのテーマで開催しました。

第1回 テーマ 「若者とこれからの地域づくり～防災・減災～」

第1回は、令和7年10月29日に、四日市大学で開催しました。県内や能登半島地震などの被災地で地域防災や被災地支援の活動を行っている大学生や地域防災活動を支援する関係団体の方などと意見交換を行いました。

参加者

- 県内在住・在学の方(15~39歳程度)
- ・地域防災や被災地支援の活動に参加している方など9人(大学生8人、社会人1人)
- ・地域防災活動を支援する大学等関係団体の方など3人
- 県議会議員(広聴広報会議議長(副議長)、広聴広報会議委員、防災県土整備企業常任委員長)10人

(写真の配置と発言は一致しません)



Q1. 私たちのまちで大規模災害が起こったとき、私たちに何ができるか

- 内陸地域では、海沿いの津波避難者の受け入れも想定して、炊き出しや避難所運営の訓練に力点を置いている。
- 骨折しても病院に運べたのは数日後という例があるように、発災直後は周りにいる人たちが助けるしかない。
- 災害時に看護学生を看護師の下で安全にボランティア活動できるプログラムを考えている。
- 防災アプリは県と市町両方の情報にリアルタイムでつながるとよい。また、若い人がアプリで情報を集めて避難所の皆さんに伝えるとよいのではないか。
- 能登では、足浴やお茶会といったボランティア活動を行っている。家族を亡くされたりしており、雑談でもよいので心のケアになればと思っている。

Q2. 大規模災害に備えてどんな準備をすればよいか

- 三重県の小中学校で使われている「防災ノート」は他県からの評判が良い。これにより県内の子どもたちの防災意識は他県より高いのではないかと。
- 地域の祭り会場は避難場所でもあり、楽しい思い出とともに避難経路を覚えることにもつながる。また、そこで炊き出しやってみようとか、防災につながる要素を入れてもよいのではないかと。
- 災害時は避難所でも上下水道が止まる可能性があり、ビニル袋や折り畳み式トイレ、洗浄水や消毒液などの備蓄が必要。
- 消防団の活動は危険などのイメージがあり、最初に親に具体的な活動をしっかりと説明できると理解してもらえる。被災地では女性団員の存在が評価されていて、最近は女性を積極的に受け入れる消防団が増えてきている。

第2回 テーマ 「離島の振興～『観光』による課題解決を目指して～」

第2回は、令和8年2月19日に、鳥羽フェリーターミナルで開催しました。鳥羽市の答志島・神島と、志摩市の渡鹿野島で、観光業や島の活性化に携わる方々と意見交換を行いました。

参加者

- 答志島・神島・渡鹿野島で観光業や地域活性化に携わる関係者の方 5人
- 県議会議員(議長、広聴広報会議議長(副議長)、広聴広報会議委員、総務地域連携交通常任委員長、政策企画雇用経済観光常任委員長)13人



《鳥羽市・神島》
寺田林右衛門本店
代表 寺田 勝昭 さん

【観光】SNSを見た方からメッセージをもらって月に約100人案内の予定を調整している。島に来る方は、あたり一面の大海原の景色を必ず見に行く。木が伸びてきて危険な箇所もあり、島民の力では限界を感じる。景色は大事なので、行政にはフォローをお願いしたい。

【船】案内する中で、離島で朝日が見たいと言う方が多いが、島の宿は1軒しかなく、また、鳥羽からの始発便は朝日が昇ってから島に着く。始発便として離島に来る0便(ゼロびん)をカラで動かすよりは少しでも人を乗せたほうが赤字解消になるし、できるようにする工夫があると考える。



《志摩市・渡鹿野島》
有限会社 観光旅館福壽荘
会長 木村 圭仁朗 さん

【観光】バリアフリー整備をしないと観光客が来ない。船の乗り降りの際に、段差ができてしまうので、浮き橋が必要だが、本土側で反対されて長年設置の話が進まない。

【インバウンド】同じエージェントで台湾からのツアー客が毎月2~3本来ている。

【船】渡船という一番のライフラインが頼りないと、安心して生活できない。

【その他】「離島である」ことを理由に、手に入らないものや割増料金がかかるサービスも多い。(例:特Aの重油など)これを離島のハンデとして認識してほしい。



《志摩市・渡鹿野島》
渡鹿野区
区長 茶香 潤造 さん

【地域活性化の取り組み】「ハートアイランド渡鹿野島」という名称で、ハートにまつわる取り組み(例:島内神社の絵馬をハート型の貝で作成等)を幾つかした。島民の皆さんの意識は重要。取り組みを常に回覧板にして、住民の方々に情報提供している。

【船】島と対岸を結ぶ渡船を扱う業者3社のうち、1社が辞める。令和8年度からの国の運行管理体制の強化の影響で、船長以外に実務経験が1年以上要する運行管理者を置く必要ができたので、今後、渡船に個人業者が新規参入することができなくなるが、志摩市も実務経験がなく運行管理者になれずフォローできない。そこが本当に悩んでいる。



《鳥羽市・答志島》
島の旅推進協議会
スタッフ 濱口 浩代 さん

【インバウンド】これからはインバウンドも受け入れていかないといけないと考えている。少しずつ整えていきたい。

【船】5年後には機関長という仕事の人が随分減る見込み。機関長を確保できないと減便が更に進むようだ。そうならないように、4島の離島の総意で、市から県、県から国という形で、一致団結して訴えないとこの問題の解決は難しいと思う。定期船に関わる体制自体が今後厳しい状況になっていくと聞いているので、そうならないように力を貸してほしい。



《鳥羽市・答志島》
一般社団法人 離島未来舎
代表理事 山下 憲一 さん

【地域活性化の取り組み】国の補助事業の中で、体験ツアーを行った。ツアー参加者に一番良かったところを聞いたところ、島の人たちとの関係性との回答だったので、離島地域は二地域居住の候補地となる可能性があると感じた。島外の方へ島に関わり続けていただくためには、島のリアルな部分を見ることが大事。滞在用の住居の不足、旅費等の経済的な負担、仕事との両立など、課題がたくさんある。地域課題の解決型の体験プランを作りながら、二地域居住の可能性を広げていきたい。

※意見交換の中から、主な意見を抜粋して掲載しています。なお、当日の概要は、三重県議会ホームページでご覧いただけます。

参加者の皆さんからいただいたご意見は、関係常任委員会で共有し議論するなど、県政への反映につながるよう取り組んでいきます。

